

## 第2学年 道徳学習指導案

指導者 細谷 俊輔

- 1 日 時 平成25年7月5日（金）第1校時
- 2 学 級 上田中学校2年3組 男子16名 女子15名 計31名 南校舎2階2年3組教室
- 3 主 題 「人と人との交わり」【2-（5）】  
「遠足で学んだこと」（出典 『中学道徳2 明日をひらく』東京書籍）

### 4 主題について

内容項目2-（5）は「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ」ことをめざしている。中学生の時期は自我の自覚が深まっていく時期であるが、自分の考えや立場に固執したり、逆に他者の意見にすぐ同調したりすることもある。したがって、自分に対して謙虚になり、他人から学ぼうとする姿勢を身に付ける必要がある。

本学級の生徒は、学校行事や授業、清掃活動など様々な活動に協力して取り組む姿が見られる。学級スローガンである「オレンジナ」のもと、お互いに関わり合いをもって、何事にも全力で取り組むことを目標に、明るい雰囲気でがんばっている。様々な場面でリーダーシップを発揮する生徒や、そのリーダーを支えようと前向きな姿勢を見せる生徒が多い反面、話し合い活動においては、悩んだりぶつかり合うことを避けて、自分の考えや意見のみを前面に主張したり、すべてを前に立つ生徒に任せたりする場面が見受けられる。

本資料は、遠足での出来事をもとにした葛藤資料である。時間やきまりを大切にしたいと考えていた主人公藤野君が、植物との触れ合うゆとりがあってもいいと考える吉川君との対立を通して、お互いを理解し合い、他の人から学ぶことの大切さに気づく。このことから、自分のあり方や生き方を見つめる心を養いたいと考え、この主題を設定した。

### 5 本時のねらい

「人と人との交わり」【2-（5）】

「自分とは異なる個性の持ち主に対しても積極的に心を開き、相手の生き方に謙虚に学ぼうとする態度を育てる。」

### 6 本時の評価

道徳的心情	お互いを理解し合いながら接することで、よりよい人間関係を築いていけることを賞賛的にとらえている。
道徳的判断力	お互いの個性を認め合うことが大切であることを理解している。
道徳的実践意欲・態度	よりよい人間関係はお互いに個性を認め合うことで成り立つことを理解し、相手の考え方からよいところを学ぼうとしている。 <b>【生徒の記述例】</b> 相手のことを理解するには、まずは自分のことを分かってもらい必要があると思うし、相手の良さに目も向けていかなければならないことが分かりました。今までは、自分と似た考えや行動をする人のことしか共感できなかったけれど、いろいろな人のいいところを認めていけるようになりたいです。

## 7 本時の指導構想

### (1) 「教えて考えさせる授業」にかかわって

本時は、道徳的実践意欲・態度の「よりよい人間関係はお互いに個性を認め合うことで成り立つことを理解し、相手の考え方からよいところを学ぼうとしている。」を主にねらったものである。

- ①【説明する】……「状況の把握」の過程において、自分が得意な分野のことを振り返り、本資料は主人公の藤野君や吉川君、牧君たちが登場すること、藤野君の班の遠足の出来事が中心であることを簡単に紹介し、共通理解をしてから資料に入っていきたい。そして、資料のあらすじを紙板書を用いて確認するとともに、遠足に向かう前の主人公の考えについてもふれる。
- ②【理解の確認】……感想を求め、価値や主人公の置かれた状況についての理解状況をモニターする。遠足を成功させようと考えて行動している主人公の状況に対する理解が不十分であることが考えられる。かかわり合いを通して、不十分の理解を表出させ、理解深化へとつなげていきたい。
- ③【理解深化】……「課題意識を高める」の過程において、植物のことを長々と説明する吉川君にいらだつ主人公をどう思うかを判断させるとともに、その根拠を問う。ここでは、集団行動を大切にしようとする主人公と、植物とのふれあいの時間を大切にしようとする吉川君に十分に共感させていきたい。

そのうえで、「価値の追求」の過程において主人公が吉川君とぶつかり合う様子から、二人とも遠足を成功させようとしているものの、考えや個性の違いから対立が起きていることを感じ取らせたい。

さらに、「変容契機をとらえる」「価値の把握」の過程において、「牧君の言葉を聞いて、藤野君の気持ちが楽になったのはなぜだろうか。」「藤野君が弁当を食べながら、吉川君に話しかけたのはどんな思いからか。」という発問をする。よりよい人間関係を築くためには、お互いに個性を認め合い、相手の考え方からよいところを学ぼうとすることが大切であるということに気づかせたい。
- ④【自己評価活動】……よりよい人間関係はお互いに個性を認め合うことで成り立つことを理解し、相手の考え方からよいところを学ぼうとする記述とともに、自分の行動を振り返り、今後の実践につながるようなことを記述できるようになってほしい。

### (2) 「表現すること」にかかわって

本時で大切にしたい「表現する」活動は次の2点である。

1点目は、行動の理由を考える活動。牧君の言葉を聞き、自分のことが理解されて安心したり、吉川君の言い分についても理解をしたりした主人公の気持ちを十分に考えさせたい。

2点目は、自己評価活動である。1時間を通して感じたことや学んだことを、今までの自分を振り返らせながらじっくりと記入させたい。

8 本時の展開

段階	過程	学習活動	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入 (12分)	状況の把握	※ 自分の好きなことや得意なことについて書く。 ※ 資料の範読		・資料に対する共通理解をさせる。
展開 (30分)	課題意識を高める  価値の追究  変容契機をとらえる  価値の把握	※ あらすじの確認 ※ 感想を求める。 「藤野君」の行動や考え方についてどのように思うか。  1 植物のことを長々と説明する吉川君にいらだちを覚えた藤野君をどう思うか。  2 藤野君と吉川君がぶつかり合ってしまったのはなぜだろうか。  3 牧君の言葉を聞いて、藤野君の気持ちが楽になったのはなぜだろうか。  4 藤野君が弁当を食べながら、吉川君に話しかけたのはどんな思いからか。	・みんなできまりを守らなくてはいけないと思うから、藤野君の考えは分かる。  ・きまりや時間を守らない吉川君に腹が立つのは当たり前だ。 ・せっかく吉川君たちが楽しんでいるのだから、あまり気にしなくてもいい。  ・自分の考えの方が正しいと思っているから。 ・班のことを考えているという点では一致しているが、二人が大切にしようと思っていたことが違うから。  ・自分の考えは間違っていないことが確認できたから。 ・自分の考えがみんなから反感を買っているような気がして不安だったけど、認めてもらえて安心したから。  ・吉川君のことをもっとよく知って、彼の良さを分かりたい。 ・相手のことを理解するためには、自分から心を開かなくていけない。	・簡潔に答えてもらう。  ・藤野君がみんなですべて決めた決まりや時間を大切にしたいと思っていることを十分に理解させる。  ・お互いの個性や考え方の相違点を明らかにしながらも、二人とも行事を大切にしようとしている点については共通であることを確認させる。  ・自分が大事にしていた価値基準が受け入れられたことをおさえると同時に、吉川君の言い分も受け入れられた主人公の心を感じ取らせる。  ・心を開いて相手を知ろうとする藤野君の勇気に気づかせる。
終末 (8分)	自己評価活動	※ 価値について考えたことを記入，発表	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">                         相手のことを理解するには、まずは自分のことを分かってもらう必要があると思うし、相手の良さに目も向けていかなければならないことが分かりました。今までは、自分と似た考えや行動をする人のことしか共感できなかったけれど、いろいろな人のいいところを認めていけるようになりたいです。                     </div>	【道徳的実践意欲・態度】  <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">                         よりよい人間関係はお互いに個性を認め合うことで成り立つことを理解し、相手の考え方からよいところを学ぼうとしている。                     </div>